

も重要視されている分類の一つです。

【1】 純粹リスク

それが生じた場合に、損害のみを発生させるリスクで、主として自然災害や偶発事故があたる。保険を活用したリスクマネジメントが一般的に可能である。

① 財産損失リスク

企業や個人の財産が損害を受けることによる損失発生リスク。

例：自宅や工場が台風・地震等の天災や、火災で損害を被る。

② 人的損失リスク

一家の大黒柱的人や会社の経営責任者の突然の死亡・重い傷病・退職による家庭や企業が直接被る可能性のある損失発生リスク。

例：社長が突然亡くなり、その後の収益が激減した。

③ 賠償責任リスク

第三者に対する心身への加害または権利の侵害によって生じる民事的（賠償）責任

例：自動車運転中誤って横断中の人を跳ね、重体で後遺障害が残った（高額賠償）。

④ 収入減少リスク

上記の結果およびその他の要因により生じる収入減少に伴う損失発生リスク。

例：工場が火災になり、その後再建のめどは立ったが、再建までの操業が出来なく、売上が激減したうえ主要な取引先も失った。

【2】 投機的リスク

それが生じた場合に、損害または利益のいずれかを発生させるリスクで、企業活動や社会的・経済的変動があたる。保険にはなじみにくく、一定の前兆の後に発生する事が多い。投機的リスクも次の3つに分類できる。

① 財務リスク

為替・株・債権等の価格変動により生じる可能性のある損失発生リスク。

② マーケットリスク

製品・原料の需給の変動により生じる可能性のある損失発生リスク。

③ ポリティカルリスク

法律・税制の変更により生じる可能性のある損失発生リスク。

2. FPまいんど

資産の運用で注意しなければならない事は、実質的な利率に注目することです。

金融商品には、さまざまな手数料や税金などがかかります場合があります。中には、振込手数料も契約者で負担する場合があります。

例えば、100万円で表面年利1%の1年物の金融商品（利息部分は源泉分離課税、振込手数料は契約者負担）を購入したとき、1年後の元利合計額は101万円ですが、源泉分離課税額は2,000円、受取額は1,008,000となります。しかし、購入時に振込手数料が840円かかっていますので、実際は1,000,840円の投資で1,008,000円の受け取りとなります。よって、実質年利は0.715%となります。

計算式は(1,008,000円-1,000,840円)÷1,000,840円×100

この様に、表面利率と実質的利率には開きがある場合があります。

運用期間が長期の場合は、複利（年・半年・月）運用か単利運用かによっても変わりますので、注意して下さい。比較しやすくするには、年平均利回りで表示すると比較しやすくなります。

ここで、年利率5%で10年間単利で運用したのと複利で運用した違いを見ます。税金や各種手数料はここではないものとします。単利で運用した場合の受取倍率は1.5倍となり年平均利回りを計算すると、5%になります。複利で運用した場合の受取倍率は1.628倍となり年平均利回りを計算すると6.28%になります。同じ表面利率でも複利の方が有利になります。また、複利の効用は運用期間が長いほど大きくなります。

年平均利回りの計算は簡単で、利息部分の合計%を運用期間（年）で割るだけです。

最後に、外貨定期の広告に年率12%という強烈な表面利率を見受けることがあります。しかし、よく見ると1ヶ月や3ヶ月の限定的な期間だけで、満期後も同じ利率で預ける事は難しいようになってます。1ヶ月でも1%（実質0.8%—為替手数料）の金利は稼げますが、その程度の利息では為替変動のリスクをまともにかぶる危険性もあります。1ヶ月後の円安を確実に見込めるならおもしろいですが。

3. 保険DE運用

前号より変額保険の話をつづけます。変額保険はインフレに強く、生涯支払う保険料コストが安いと言いました。ここで、保障コストの比較をしたいと思います。

条件は30歳男性で1千万円の死亡・高度障害の保障を得るコストを比較します。

S社の変額終身を60歳払込（60歳で保険料の支払いは終了するが保障は一生涯）を購入、保険料は月払いで11,230円となり、総支払い保険料合計は4,042,800円になります。それに対し、保険料が安いとされる同社の定期保険（10年更新型、共済なども同じような仕組みで、要するに掛け捨て保険）を購入、保険料は当初月払いで2,510円となります。単純に比較すれば定期保険を選ぶ人が大多数となります。通販商品に定期性の商品が多いのはこの理由からです。しかし、10年後には保険料は3,840円、その次は7,370円、15,440円、38,320円と逡増して、80歳までまじめに掛け続けると支払い保険料合計は、なんと8,097,600円にもなります。そして、満期時には1円の返戻金もありません。変額終身の約2倍の保険料をつぎ込んでも、キャッシュバリュー（解約返戻金）が全く無く、80歳以降の保障も無くなりますので、80歳以上長生きした場合、何も受け取れません。

変額終身の場合、最低1千万円の保障が生涯残り、運用の結果次第で保険金額（保障額）や解約返戻金が大きく育まれる可能性があります。万一運用が良くなかったとしても、解約さえしなければ、最低死亡・高度障害保障が残りますので、ご家族が必ず受け取ることができます。保険料の支払い合計が約400万円と言うことを考えますと、さまざまな局面で定期保険と比較して有利なことは歴然です。

しかし、保険料の支払いが大変な人は定期保険を有効に利用する事も良いと思います。

支払う余裕のある人または、長期の保障と長期の資産運用（貯蓄）も兼ねてと考えられる人は変額終身はまさにぴったりの商品ではないでしょうか。もちろん、長期運用なので、無理のない金額ということと、保険会社の財務状況チェックは怠りなく。

4. 新商品紹介

第1号のニュースレターで紹介したアリコジャパンの米国通貨建て個人年金保険「レグルス」が10月1日より「レグルスII」とバージョンアップします。詳細はまだ、発売前なので説明出来ませんが、今までは米ドル建てのみだったのが、ユーロ建てを追加、さらに両方の通貨を選択可能としています。詳細は次号にて。

現在、世界的な株価上昇や米国の好調な景気指標から金利が上昇しています。

レグルスの9月1日から9月15日の金利は10年据置、積立利率保証の場合3.32%（初年度は4.32%）となりました。また、為替も円高基調となり、外貨建商品の検討に良いタイミングとなってきてます。

5. マーケットウォッチ

前段でも触れましたが、日経平均株価が1万円を超え、東証1部の株式売買高も10億株を遙かに上回る16億株前後の取引が行われ、久しぶりの活況を呈しています。

平均株価が8千円前後の頃には外国人投資家の取引が盛んになり、続いて個人投資家が市場に戻ってきました、そして9月になって、ようやく機関投資家が市場に戻り、株価に底堅さが出てきたように感じます。金融機関など含み益の増大、または含み損の減少または含み益化し、ほっとしていることでしょう。

変額保険の運用レポートを見てもここ2ヶ月は特に株式のファンドは国内外とも良い成績になってます。

また、景気好調を先取りするかのように、長期金利が高騰しています。10年物新発国債の金利が1.5%前後に急騰しています。2ヶ月以前は0.5%前後でしたのに。早速住宅ローンなどの長期ローンに影響がでています。日本の景気の期待感からか、円高傾向になってます。

この様に2ヶ月前と明らかにトレンド（流れ）が変わってきています。資産運用の選択肢が増えますので、運用の初心者やこれからお金を貯めたいと言う人は、もっと基本的なところから学んで頂き、決して間違った方向性に行かないで欲しいと思います。最低限リスクの分散化は確実に行うよう、ご助言申し上げます。

基本的マネーセミナー「SMMS」間もなく始動します。ご期待ください。

発行者

山形安全情報企画 武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.newweb.ne.jp